

Ⅲ 財務の概要

1 資金収支計算書の概要

(資金収支計算書から見た概要及び前年度との対比)

資金収支計算書は、その会計年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日）の教育研究活動に対応する資金調達（資金収入）と資金の使途（資金支出）の全てを明らかにしたものです。

【資金収入の部】

(1) 学生生徒等納付金収入

前年度比 8,061万円増の48億4,096万円となりました。

増額の要因は、平成30年度に看護学部が完成年度を迎え、学生数が増加したことによるもので、学園全体の学生・生徒等総数（平成30年5月1日現在）は、前年度比9名増の5,028名となりました。

(2) 手数料収入

前年度比 74万円増の 1億2,592万円となりました。

この科目の主たる収入は、令和元年度入学志願者の入学検定料収入であり、前年度比 388万円の増となりましたが、大学入試センター試験実施手数料収入は、前年度比 357万円の減となりました。

(3) 寄付金収入

前年度比 135万円減の4,299万円となりました。

寄付金の内訳は、聖徳学園サポーター寄付金などの特別寄付金収入は、前年度比123万円の減、また、後援会及び保護者会などからの一般寄付金収入が前年度比 12万円の減となりました。

(4) 補助金収入

前年度比 227万円減の10億6,637万円となりました。

私立大学等経常費補助金などの国庫補助金収入は、前年度比 418万円の増となりましたが、岐阜県私立学校教育振興費補助金などの地方公共団体補助金収入は、前年度比 645万円の減となりました。

(5) 資産売却収入

前年度比 4,513万円減の 7億5,994万円となりました。

これは、投資信託などの資金運用を行った結果、有価証券売却収入が前年度より減収したことによるものです。

(6) 付随事業・収益事業収入

前年度比 233万円増の 1億 861万円となりました。

子育て支援事業等に係る受託事業収入は、前年度比 613万円の増となりましたが、給食費などの補助活動収入は、生徒・児童数の減少により前年度比 380万円の減となりました。

なお、聖徳自動車学園からの収益事業収入は、前年度同額の2,000万円となりました。

(7) 受取利息・配当金収入

金利水準が低位で推移する中、前年度比 1,976万円減の1,184万円となりました。

(8) 雑収入

前年度比 1億4,817万円減の 1億5,911万円となりました。

雑収入は、台風被害による修繕に伴う保険金収入があり、前年度比 1,505万円の増となりましたが、退職金の財源となる私立大学退職金財団及び岐阜県退職金社団からの交付金収入は、前年度比 1億6,492万円の減となりました。

(9) 前受金収入

前年度比 260万円減の 8億9,166万円となりました。

令和元年度の入学金等前受金収入が前年度比 474万円の増となりましたが、授業料等前受金収入は前年度比 734万円の減となりました。

(10) その他の収入

前年度比 4,638万円増の 4億6,315万円となりました。

主な要因は、前期末未収入金収入（退職者に伴う退職金財団（社団）交付金収入等）や仮受金収入は前年度より増となりましたが、預り金受入収入は前年度より減となりました。

【資金支出の部】

(1) 人件費支出

前年度比 2億 21万円減の36億5,245万円となりました。

教職員の人件費は、前年度比 898万円減の34億9,632万円となりました。また、退職金支出は、前年度比 1億9,102万円減の 1億2,714万円となりました。

(2) 教育研究経費支出

前年度比 6,025万円減の13億 451万円となりました。

主な科目の前年度比及びその要因は次のとおり。

- ・ 消耗品費支出：前年度比 1,042万円増の 1億5,006万円
- ・ 光熱水費支出：前年度比 1,035万円増の 1億4,976万円
- ・ 奨学費支出：前年度比 2,486万円減の 1億5,996万円
- ・ 修繕費支出：前年度比 8,680万円減の 5,791万円
- ・ 支払報酬等支出：前年度比 300万円増の 1,540万円
- ・ 生徒輸送費支出：前年度比 1,613万円増の 2億2,673万円
- ・ 雑費支出：前年度比 302万円増の 5,031万円

(3) 管理経費支出

前年度比 388万円増の 4億 405万円となりました。

主な科目の前年度比及びその要因は次のとおり。

- ・ 保守点検委託費支出：前年度比 533万円増の 4,087万円
- ・ 渉外費支出：前年度比 387万円増の 1,473万円
- ・ 広告料支出：前年度比 1,075万円減の 1億1,343万円
- ・ 賄費支出：前年度比 347万円減の 6,017万円
- ・ 雑費支出：前年度比 486万円増の 2,189万円

(4) 借入金等利息支出

借入金の利息は、前年度比 6万円減の27万円となりました。

(5) 借入金等返済支出

借入金の返済金は、龍谷学事振興金庫からの借入金を全額一括繰上返済することで、前年度比 1億4,000万円増の 1億8,000万円となりました。

(6) 施設関係支出

前年度比 4億7,741万円減の2,755万円となりました。

主な科目の前年度比は次のとおり。

- ・土地支出：前年度比 1億2,513万円減の1,691万円
- ・建物支出：前年度比 3億4,853万円減
- ・構築物支出：前年度比 375万円減の1,064万円

(7) 設備関係支出

前年度比 8,801万円増の 2億 446万円となりました。

主な科目の前年度比は次のとおり。

- ・教育研究用機器備品支出：前年度比 9,989万円増の1億8,755万円
- ・管理用機器備品支出：前年度比 1,321万円減の261万円
- ・図書支出：前年度比 237万円増の1,431万円
- ・車両支出：前年度比 104万円減

(8) 資産運用支出

前年度比 2億8,174万円減の 8億7,268万円となりました。

これは、将来構想実現に向けた財源確保を目的とした特定資産に3億円を積立てたことで増となりましたが、資金運用を行った結果、有価証券購入支出が前年度比 5億8,171万円の減となりました。

(9) その他の支出

前年度比 1億3,344万円増の 6億7,211万円となりました。

主な要因は、前年度における前期末未払金支払支出（退職者に伴う退職金等）が前年度比 1億 648万円の増となり、また、仮受金支払支出や預り金支払支出も前年度より増となりました。

2 活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「教育活動」、「施設整備等活動」と「その他の活動」の三つの活動区分に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにしたものです。

(1) 教育活動による資金収支の状況

「教育活動」の収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入及び經常費等補助金収入などです。寄付金収入及び補助金収入のうち、施設設備に係る寄付金及び補助金は、「施設整備等活動」の収入に区分されます。

「教育活動」の支出は、人件費支出、教育研究経費支出及び管理経費支出です。

平成30年度の教育活動資金収入計は、62億9,841万円、教育活動資金支出計は、53億6,100万円で、差引 9億3,741万円となり、調整勘定等 △8,473万円を加味した教育活動資金収支差額は、8億5,268万円となりました。

(2) 施設整備等活動による資金収支の状況

「施設整備等活動」の収入は、施設設備寄付金収入及び施設設備補助金収入です。

「施設整備等活動」の支出は、施設関係支出、設備関係支出及び施設設備の整備を目的とした引当特定資産繰入支出です。

平成30年度の施設整備等活動資金収入計は、2,844万円、施設整備等活動資金支出計は、2億4,987万円で、差引 △2億2,143万円となり、調整勘定等 1,335万円を加味した施設整備等活動資金収支差額は、△2億 808万円となりました。

また、教育活動資金収支差額と施設整備等活動資金収支差額の計は、6億4,460万円となりました。

(3) その他の活動による資金収支の状況

「その他の活動」の収入は、有価証券売却収入及び預り金受入収入や受取利息・配当金収入及び収益事業収入などです。

「その他の活動」の支出は、借入金等返済支出、有価証券購入支出及び学園維持引当特定資産繰入支出や借入金等利息支出などです。

平成30年度のその他の活動資金収入計は、9億8,625万円、その他の活動資金支出計は、12億1,654万円で、その他の活動資金収支差額は、△2億3,029万円となりました。

以上の結果、支払資金の増減額は、4億1,431万円となり、前年度繰越支払資金19億3,492万円を加えた翌年度繰越支払資金は、23億4,923万円となりました。

3 事業活動収支計算書の概要

(事業活動収支計算書から見た概要及び前年度との対比)

事業活動収支計算書は、「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」と「臨時的活動」の各活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、「基本金組入額」を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を明らかにしたものです。

(1) 経常収支（教育活動・教育活動外収支）の状況

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金などの教育活動収入計は、前年度比 5,742万円減の62億9,999万円となりました。人件費、教育研究経費、管理経費などの教育活動支出計は、前年度比 2億3,016万円減の60億7,510万円となりました。教育活動収入計から教育活動支出計を差し引いた教育活動収支差額は、前年度比 1億7,274万円増の 2億2,489万円となりました。

- ・人件費は、前年度比 1億4,476万円減の36億9,182万円。
- ・教育研究経費は、前年度比 8,843万円減の19億3,591万円。
- ・管理経費は、前年度比 632万円増の 4億4,530万円。

一方、受取利息・配当金、収益事業収入などの教育活動外収入計は、前年度比 1,976万円減の3,184万円となりました。借入金利息などの教育活動外支出計は、前年度比 6万円減の27万円となりました。教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額は、前年度比 1億5,304万円増の 2億5,645万円となりました。

(2) 特別収支の状況

施設設備に係る寄付金や補助金、現物寄付などの特別収入計は、前年度比2,275万円減の4,599万円となりました。特別支出計は、前年度比 15万円減の3,144万円となりました。特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は、前年度比 2,260万円減の1,455万円となりました。

(3) 基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前当年度収支差額は、前年度から 1億3,044万円改善し、2億7,100万円となりました。

(4) 当年度収支差額・翌年度繰越収支差額

基本金組入額は、前年度比 2億 539万円減の 2億7,744万円となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた当年度収支差額は、△643万円となりました。その結果、前年度繰越収支差額△62億8,919万円と基本金取崩額 766万円を合算した翌年度繰越収支差額は、△62億8,797万円となりました。

4 貸借対照表の概要

(貸借対照表から見た概要及び前年度との対比)

貸借対照表は、期末における財政状態を示しています。資産がどのような調達源泉、すなわち負債（借入金等）、及び純資産（基本金、繰越収支差額）によってまかなわれているかを表示しています。

(1) 資産の状況

年度末の資産の部合計は、247億8,155万円で、前年度末に比べて9,541万円の減となりました。

有形固定資産は、前年度末に比べて4億4,982万円減の172億4,078万円となりました。主な要因は、教育研究用機器備品や校地取得による増加があるものの、図書除却や建物及び構築物等の減価償却資産の減少によるものです。

特定資産は、前年度末に比べて3億1,786万円増の27億2,174万円となりました。

その他の固定資産は、前年度末に比べて1億9,763万円減の17億9,757万円となりました。減少の要因は、保有する有価証券の償還によるものです。

流動資産は、2億3,418万円増の30億2,146万円となりました。主な要因は、保有する有価証券の償還に伴い、現金預金が増加したことによるものです。

(2) 負債の状況

負債の部合計は、27億6,839万円で、前年度末に比べて3億6,641万円の減となりました。

固定負債は、退職給与引当金及び長期未払金の増加があるものの、長期借入金の減少により、前年度末に比べて9,031万円減の14億5,484万円となりました。

流動負債は、未払金及び短期借入金等の減少により前年度末に比べて2億7,610万円減の13億1,355万円となりました。

なお、借入金（長期及び短期）は、全額返済することができました。

(3) 純資産の状況

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の額は、220億1,315万円となり、前年度末に比べて2億7,100万円の増となっています。

基本金は、平成30年度に2億6,978万円を組入れたことにより、283億112万円となりました。

繰越収支差額は、事業活動収支計算の結果、122万円減の62億8,797万円の繰越支出超過となりました。